

愛称 グロイン・フレックス

ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド(毎月分配型)フレックス・コース

追加型投信/内外/株式 [設定日:2014年7月31日]

「投資リスク」の項目も必ずお読みください。

- 1 主に世界の高配当利回りの公益株に分散投資します
- 2 フレックス戦略を駆使して、下落リスクの低減を目指します
- 3 毎月決算を行い、収益分配方針に基づき分配を行います (分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。)

※投資にあたっては、次の投資信託証券への投資を通じて行います。○ピクテ・グローバル・セレクション・ファンド-グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド(当資料において「グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド」という場合があります) ○ピクテ・グローバル・セレクション・ファンド-グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・カレンシー・ヘッジド・ファンド(当資料において「グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・カレンシー・ヘッジド・ファンド」という場合があります) ○ピクテ・ショートターム・マネー・マーケットJPY(当資料において「ショートタームMMF JPY」という場合があります) ※資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

Info - ファンドの基本情報

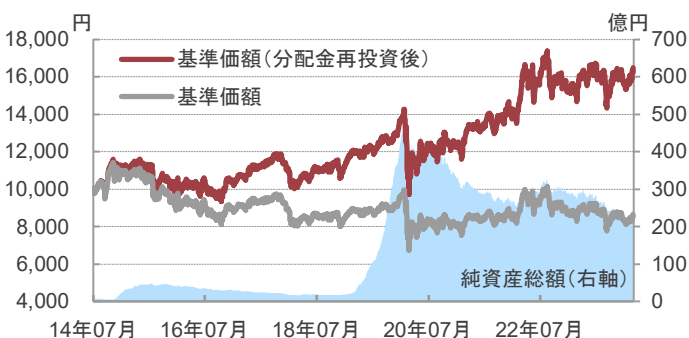
ファンドの現況

	24年02月末	24年03月末	前月末比
基準価額	8,342円	8,649円	+307円
純資産総額	220億円	222億円	+2億円

ファンドの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
	4.30%	3.90%	7.00%	6.16%	27.07%	64.51%

設定来の推移



分配金実績(1万口あたり、税引前)

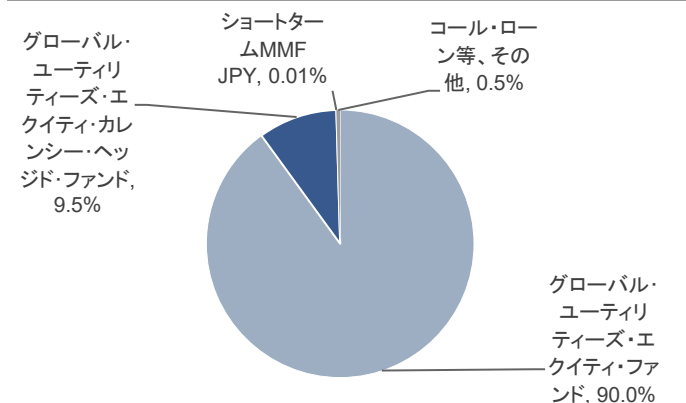
決算期	24年01月10日	24年02月13日	24年03月11日	設定来累計
分配金実績	50円	50円	50円	5,750円
基準価額	8,644円	8,088円	8,342円	--

※ 基準価額は、各決算期末値(分配金落ち後)です。あくまでも過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。

【ご参考】基準価額変動の内訳

	24年01月	24年02月	24年03月	設定来
基準価額	8,320円	8,342円	8,649円	8,649円
変動額	-155円	+22円	+307円	-1,351円
うち 株式	-332円	-44円	+356円	+4,105円
為替	+236円	+124円	+9円	+1,363円
分配金	-50円	-50円	-50円	-5,750円
その他	-9円	-8円	-8円	-1,068円

資産別構成比



※ ショートタームMMF JPYは、短期金融商品等に投資を行っています。投資する証券の発行体の信用格付けはA2/P2以上とし、円建てでの高水準の元本の安定性と短期金融市場金利の確保を目的とします。

円資産の比率

	当月末	前月末	増減
円資産	10.8%	20.2%	-9.4%

Point - ファンドのポイント

「投資リスク」の項目も必ずお読みください。

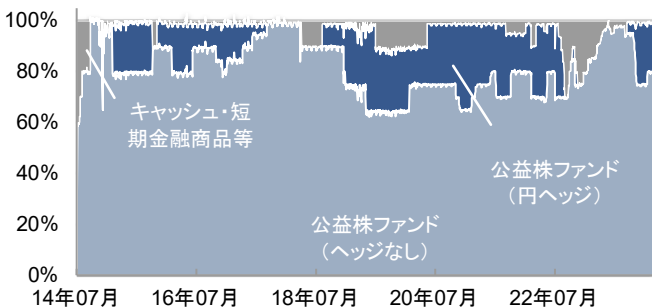
- ① 株式投資の第一歩に適している「世界高配当公益株」に分散投資します。
- ② 市場環境に応じて株式の実質組入比率を変更したり、為替変動リスクの低減を図る「フレックス戦略」を用い、下落リスクの低減を目指します。
- ③ 株式の実質組入比率の投資判断は、マクロ経済エコノミスト、ストラテジスト、株式・債券運用チーム等が持つ全ての情報が集約されたアセット・アロケーション・チームが行います。

各項目の注意点 [ファンドの現況][設定来の推移]基準価額は信託報酬等控除後です。信託報酬率は「手続・手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。純資産総額およびその前月末比は、1億円未満を切り捨てて表示しています。基準価額(分配金再投資後)は、購入時手数料等を考慮せず、税引前分配金を再投資した場合の評価額を表します。[ファンドの騰落率]各月最終営業日ベース。ファンドの騰落率は、税引前分配金を再投資して計算しています。[基準価額変動の内訳]月次ベースおよび設定来の基準価額の変動要因です。基準価額は各月末値です。設定来の基準価額は基準日現在です。組入ファンドの価格変動要因を基に委託会社が作成した参考情報として記載しているものです。グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンドおよびグローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・カレンシー・ヘッジド・ファンドの管理報酬等は株式に含まれます。各項目(概算値)ごとに円未満は四捨五入しており、合計が一致しない場合があります。為替には、ヘッジコストのほかヘッジ比率の変動による要因等が含まれます。その他には、管理報酬等を含むショートタームMMF JPYの要因や、当ファンドの信託報酬等を含みます。[円資産の比率]円資産にはグローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・カレンシー・ヘッジド・ファンドを含みます。

- ◆ 構成比は四捨五入して表示しているため、それを用いて計算すると誤差が生じる場合があります。
- ◆ 当資料における実績は、税金控除前であり、実際の投資者利回りとは異なります。また、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

Portfolio – ポートフォリオの状況

資産別構成比の推移(日次、設定来)



※ 公益株ファンド(ヘッジなし): グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド、公益株ファンド(円ヘッジ): グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・カレンシー・ヘッジド・ファンド、キャッシュ・短期金融商品等: ショートタームMMF JPYおよびコール・ローン等、その他

コメント

世界の株式市場は、上旬にかけてAI(人工知能)普及拡大への期待を背景にハイテク銘柄が堅調となったことに加え、パウエル米連邦準備制度理事会(FRB)議長が年内の利下げ開始見通しを示したこと、欧州中央銀行(ECB)がインフレ予測を引き下げたことなどを背景に上昇基調となりました。中旬以降は、米小売売上高が市場予想を下回ったことや主要株価指数が高値圏にあり利益確定の売りが出たことなどがマイナス要因となったものの、米連邦公開市場委員会(FOMC)が年内3回の利下げ見通しを維持したこと、スイス中銀の利下げ、ユーロ圏の総合購買担当者景気指数(PMI)の改善などを背景に世界の株式市場は堅調に推移し、月間でも上昇となりました。業種別では、すべての業種が上昇しました。特にエネルギー、素材、公益事業、金融などの上昇率が大きくなりました。一方、一般消費財・サービス、ヘルスケアなどは相対的に小幅な上昇にとどまりました。

当月の当ファンドの基準価額(分配金再投資後)は、主に株式がプラスに寄与したため上昇しました。公益株が上昇する中、為替市場では円安・ドル高が進行しました。月末時点の資産配分は、公益株ファンド(ヘッジなし)90.0%、公益株ファンド(ヘッジあり)9.5%、キャッシュ等0.5%としました。

※ コメントの内容は、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものでも、その推奨を目的としたものでもありません。

Fund – 各組入ファンドの状況

公益株ファンドの合計^(注1)

組入上位5カ国		組入上位5通貨	
組入国数	12カ国	組入通貨数	8通貨
1 米国	70.7%	1 米ドル	70.0%
2 英国	8.6%	2 ユーロ	13.7%
3 ドイツ	6.6%	3 英ポンド	8.6%
4 イタリア	3.1%	4 香港ドル	2.8%
5 スペイン	3.1%	5 カナダドル	1.9%

地域別構成比

1 北米	72.0%
2 欧州	22.3%
3 新興国	4.7%
4 --	--
5 --	--

組入上位5業種

1 電力	40.8%
2 総合公益事業	35.7%
3 独立系発電・エネルギー販売	7.6%
4 ガス	4.5%
5 商業サービス・用品	3.3%

組入銘柄の予想平均配当利回り 3.9%

組入上位10銘柄		組入銘柄数		55銘柄
銘柄名	国名	業種名	構成比	
1 ネクステラ・エナジー	米国	電力	4.9%	
2 PG&E	米国	電力	4.5%	
3 センプラ	米国	総合公益事業	4.4%	
4 サザン	米国	電力	4.2%	
5 エクセロン	米国	電力	4.2%	
6 RWE	ドイツ	独立系発電・エネルギー販売	4.1%	
7 DTEエナジー	米国	総合公益事業	4.0%	
8 PSEG	米国	総合公益事業	4.0%	
9 SSE	英国	電力	3.8%	
10 ナショナル・グリッド	英国	総合公益事業	3.7%	

(注1) グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンドとグローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・カレンシー・ヘッジド・ファンドを合算した状況です。各項目の注意点 [組入銘柄の予想平均配当利回り] 2月末の予想配当利回りを加重平均した値です。したがって、今後変動する場合があります。

◆ 株式への投資と同様な効果を有する証券がある場合、株式に含めています。構成比は四捨五入して表示しているため、それを用いて計算すると誤差が生じる場合があります。業種はGICS(世界産業分類基準)の産業を基にピクテ・ジャパン株式会社で作成し、分類・表示しています。◆ 株式には米ドルなどの他国通貨で発行されているものがあり、それらに投資を行うことがあります。このため、株式の国別構成比と通貨別構成比は異なることがあります。◆ 表で示した組入上位銘柄は、特定の銘柄の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、その価格動向を示唆するものでもありません。

ショートタームMMF JPY

ファンドの特性

平均格付け	A1
修正デュレーション	0.13年
※ 平均格付けは、組入銘柄の信用格付けを加重平均したもので、当ファンドの信用格付けではありません。	

信用格付別構成比

AAA	10.2%
AA1 - AA3	14.1%
A1 - A3	75.6%
BBB1以下	--
無格付	--

◆ 組入銘柄の信用格付けは、ムーディーズ・インベスターズ・サービス、S&Pグローバル・レーティングのうちいずれか低い格付けを用いて分類しています。格付けが無い場合は投資顧問会社が同等の信用度を有すると判断した格付けを用いています。(出所:ピクテ・アセット・マネジメント)。◆ 構成比は、組入債券を100%として計算しています。四捨五入して表示しているため、それを用いて計算すると誤差が生じる場合があります。

公益株の運用状況

組入上位10銘柄はすべて上昇しました。組入上位10銘柄中、上昇(現地通貨ベース)率が大きかった銘柄は、ネクステラ・エナジー(米国、電力)、サザン(米国、電力)、PSEG(米国、総合公益事業)などでした。

ネクステラ・エナジーは、同社にかけられていた政治資金疑惑に対する調査が終了したことや、同社が開催した投資家向けのイベントで、グリーンシフトやデータセンターなどによる再生可能エネルギーの需要増大など、今後のビジネスチャンスが大きさが強調されたことなどが好感され、上昇しました。サザンは、今後の設備投資計画を上方修正したことや、2023年第4四半期の決算内容が好感されたことなどを背景に、上昇しました。PSEGは、2月末の投資家向け説明会で、送電・配電ビジネスへの投資額増額を強調した今後の投資計画を発表したことなどを背景に、上昇しました。

売買では、PSEGとネクステラ・エナジーを買い増し、それぞれ組入比率を引き上げました。ネクステラ・エナジーは、2023年に子会社であるネクステラ・エナジー・パートナーズが配当成長見通しの引き下げを発表して以来、低調に推移してきましたが、経営陣による同社に対する評価改善に向けての努力を評価しています。一方、決算内容や利益成長見通しなどが好感され、株価が回復したスペインの電力銘柄を一部売却し、組入比率を引き下げました。

底堅い景気や欧米の早期利下げ観測を背景に、先進国の株式には引き続き強い上昇トレンドが見られる一方、米国を中心に株価の割高感も強まっています。このように投資環境には強弱両材料が混在し始めており、今後の状況が強弱どちらに傾くかを慎重に見極めていく方針です。当面は現金比率を低めに抑えつつも、リスクの調整を随時行うこととします。為替については、円資産比率を一部引き下げたものの、円反発の可能性を警戒し、機動的に為替ヘッジ比率の調整を検討します。

(※ 将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。)

※ コメントの内容は、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものでも、その推奨を目的としたものでもありません。

投資リスク

[基準価額の変動要因]

- ファンドは、実質的に株式等に投資しますので、ファンドの基準価額は、実質的に組入れている株式の価格変動等(外国証券には為替変動リスクもあります。)により変動し、下落する場合があります。
- したがって、**投資者の皆様の投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。**

株式投資リスク (価格変動リスク、信用リスク)	<ul style="list-style-type: none"> ●ファンドは、実質的に株式に投資しますので、ファンドの基準価額は、実質的に組入れている株式の価格変動の影響を受けます。 ●株式の価格は、政治経済情勢、発行企業の業績・信用状況、市場の需給等を反映して変動し、短期的または長期的に大きく下落することがあります。
為替に関する リスク・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ●実質組入外貨建資産について、為替ヘッジを行わない場合には、係る外貨建資産は為替変動の影響を受け、円高局面は基準価額の下落要因となります。 ●為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図る場合がありますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではなく、為替変動の影響を受ける場合があります。また、円金利がヘッジ対象通貨の金利より低い場合、当該通貨と円との金利差相当分のヘッジコストがかかることにご留意ください。
フレックス戦略による リスク	<ul style="list-style-type: none"> ●ファンドは株式の実質組入比率等を変更するフレックス戦略により、基準価額の下落リスクの低減を目指しますが、想定外の市場動向等により当該戦略が効果的に機能しない場合もあり、市場の下落リスクを低減できないことや市場の上昇に追従できないことがあります。また、ファンドの基準価額の下落リスクを完全に回避できるものではなく、また一定の基準価額水準を保証するものでもありません。ファンドは実質的にショート(売り)ポジションを保有することにより価格変動リスクの低減を図る戦略をとる場合がありますが、実質的に組入れている株式とショートしている株式が異なることにより価格変動リスクが低減されない場合があるほか、ショートしている株式の価格の騰落率が相対的に高い場合は基準価額が下落する要因となる場合があります。
デリバティブ取引 に伴うリスク	<ul style="list-style-type: none"> ●ファンドは、実質的にデリバティブ取引を行うことがありますので、ファンドの基準価額は当該デリバティブ取引の価格変動の影響を受ける場合があります。また、デリバティブ取引にかかる取引コストが生じ原資産の価格動向を下回る評価価格となる場合があります。 ●実質的に店頭デリバティブ取引を行う場合には、取引の相手方の倒産等により契約が不履行になるリスクがあります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

[その他の留意点]

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金の支払いが遅延する可能性があります。

ファンドの特色

〈詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください〉

- 主に世界の高配当利回りの公益株に分散投資します
- フレックス戦略を駆使して、下落リスクの低減を目指します
- 毎月決算を行い、収益分配方針に基づき分配を行います

- 毎月10日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、原則として以下の方針に基づき分配を行います。
 - 一分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
 - 一収益分配金額は、基準価額の水準等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。
 - 一留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

※ファンドでは、指定投資信託証券として以下の各投資信託を主要投資対象とします。なお、指定投資信託証券は委託会社により適宜見直しされ、選定条件に該当する範囲において変更されることがあります。

○ピクテ・グローバル・セレクション・ファンド-グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド(当資料において「グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド」という場合があります)

○ピクテ・グローバル・セレクション・ファンド-グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・カレンシー・ヘッジド・ファンド(当資料において「グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・カレンシー・ヘッジド・ファンド」という場合があります)

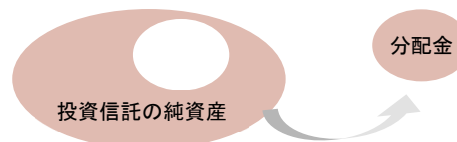
○ピクテ・ショートターム・マネー・マーケット JPY(当資料において「ショートターム MMF JPY」という場合があります)

※資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

[収益分配金に関する留意事項]

投資信託で分配金が支払われるイメージ

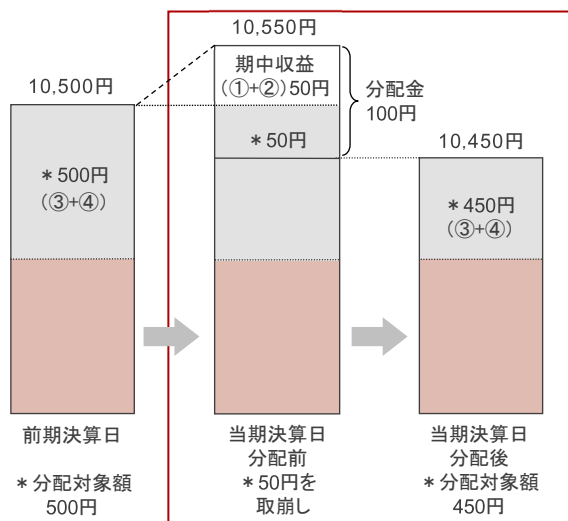
分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



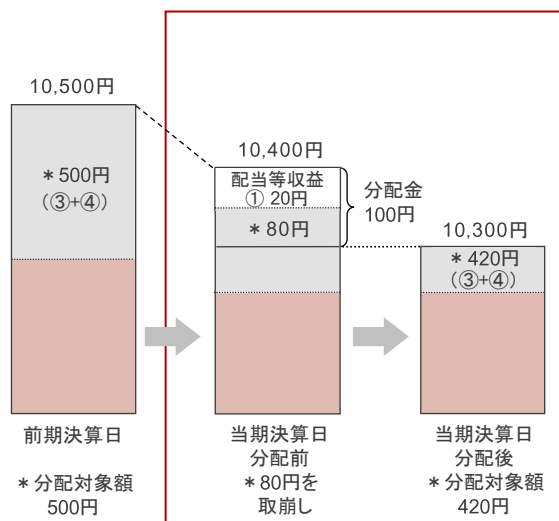
分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合

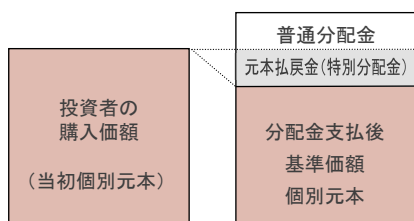


(注)分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

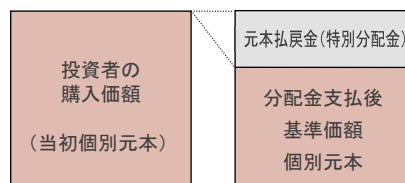
投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金： 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金： 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

(注)普通分配金に対する課税については、「手続・手数料等」の「税金」をご参照ください。

手続・手数料等

[お申込みメモ]

購入単位	販売会社が定める1円または1口(当初元本1口=1円)の整数倍の単位とします。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。(ファンドの基準価額は1万口当たりで表示しています。)
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いします。
購入・換金の申込不可日	ルクセンブルグの銀行、ロンドンの銀行またはニューヨーク証券取引所の休業日においては、購入・換金のお申込みはできません。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口換金には制限を設ける場合があります。
信託期間	2014年7月31日(当初設定日)から無期限とします。
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には信託が終了(繰上償還)となる場合があります。
決算日	毎月10日(休業日の場合は翌営業日)とします。
収益分配	年12回の決算時に、収益分配方針に基づき分配を行います。 ※ファンドには収益分配金を受取る「一般コース」と収益分配金が税引後無手数料で再投資される「自動けいぞく投資コース」があります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみのお取扱いとなる場合があります。

[ファンドの費用]

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	3.3%(税抜3.0%)の手数料率を上限として、販売会社が独自に定める率を購入価額に乗じて得た額とします。 (詳しくは、販売会社にてご確認ください。)
信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)	毎日、信託財産の純資産総額に年1.21%(税抜1.1%)の率を乗じて得た額とします。 運用管理費用(信託報酬)は毎日計上(ファンドの基準価額に反映)され、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。 [運用管理費用(信託報酬)の配分(税抜)]		
	委託会社	販売会社	受託会社
	年率0.38%	年率0.7%	年率0.02%
投資対象とする投資信託証券	グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・カレンシー・ヘッジド・ファンド ショートターム MMF JPY		純資産総額の年率0.6% 純資産総額の年率0.3%(上限)
実質的な負担	(上記の報酬率等は、今後変更となる場合があります。) 最大年率 1.81% (税抜1.7%)程度 (この値はあくまでも目安であり、ファンドの実際の投資信託証券の組入状況により変動します。)		
その他の費用・手数料	毎日計上される監査費用を含む信託事務に要する諸費用(信託財産の純資産総額の年率 0.055% (税抜0.05%)相当を上限とした額)ならびに組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等および外国における資産の保管等に要する費用等(これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。)は、そのつど信託財産から支払われます。投資先ファンドにおいて、信託財産に課される税金、弁護士への報酬、監査費用、有価証券等の売買に係る手数料等の費用が当該投資先ファンドの信託財産から支払われます。		

※当該費用の合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

[税金]

- 税金は表に記載の時期に適用されます。
- 以下の表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。


時期	項目	税金
分配時	所得税 および地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して 20.315%
換金(解約)時 および償還時	所得税 および地方税	譲渡所得として課税 換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)に対して 20.315%

※上記は、当資料発行日現在のものですので、税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

※法人の場合は上記とは異なります。

※税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社、その他の関係法人の概要

委託会社	ピクテ・ジャパン株式会社(ファンドの運用の指図を行う者) 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第380号 加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会	【ホームページ・携帯サイト(基準価額)】 https://www.pictet.co.jp	
受託会社	三井住友信託銀行株式会社(ファンドの財産の保管および管理を行う者) 〈再信託受託会社: 株式会社日本カストディ銀行〉		
投資顧問会社	ピクテ・アセット・マネジメント・エス・エイ、ピクテ・アセット・マネジメント・リミテッド(ファンドの資産配分に関する助言を行う者)		
販売会社	下記の販売会社一覧をご覧ください。(募集の取扱い、販売、一部解約の実行の請求受付ならびに収益分配金、償還金および一部解約代金の支払いを行う者)		

販売会社一覧

投資信託説明書(交付目論見書)等のご請求・お申込先

商号等			加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社SBI証券(注1)	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
クレディ・スイス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第66号	○	○	○	○
野村證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○
PWM日本証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第50号	○			○
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社滋賀銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第11号	○		○	
PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第624号	○		○	

(注1) 株式会社SBI証券は、上記の他に一般社団法人日本STO協会・日本商品先物取引協会にも加入しております。

当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ・ジャパン株式会社が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。●投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります)に投資いたしますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の皆様は投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。●運用による損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。